

すべての女性が輝く明日のために

# JAUW 会報

第276号  
2022年7月



一般社団法人  
大学女性協会



牛窓オリーブ園にて

## 特集 第11回定時会員総会の報告

岩村会長挨拶、2022年 JAUW 理事・監事 ……	2	ユースに力づけられた2022年春の JAUW ……	8
定時会員総会について、議事抄録、開催報告…	3	Jカフェ報告	
記念講演、研修旅行…	4	国際奨学生からのメッセージ ……	9
会員拡大ワークショップ…	5	国連第3委員会本会議をオンライン視聴して	
第24回守田科学研究奨励賞贈呈式…	6	コロナ禍での委員会活動…	10~11
受賞者研究概要…	7	シンポジウムのご案内…	12
		パトリア募金寄付者ご芳名、国内奨学生募集要項 新入会員、理事会から	

## 伝統をまもることと、次の世代につなげること 会長 岩村 道子



大学女性協会の2022年度会長を務めることになった岩村道子です。コロナ禍という未曾有の揺れ動く世界情勢に対応しつつ、2年間大学女性協会を率いて前進させていらした加納孝代会長の後を引き継ぐことに、たいへん心もとない気持ちであります。しかし、理事会には理事・監事としての経験豊富な方たちと意欲満々で

活発な理事の方たちがそろわれており、会長を支えてくださるということで何とかなるだろうとお引き受けいたしました。なにぶん、私は歴代の会長の中でおそらく最高齢での就任ですので、今後のJAUW運営に懸念をお持ちの会員の方も多々いらっしゃるものと存じます。理事会のメンバーの方たちに支えられながら精いっぱい努力し働いて、次のJAUWへと滞りなく引き継いでゆきたいと思っております。

前理事会は、新しいホームページの立ち上げ、未来世代応援奨学金「パトリア募金」の設置など、新しい時代に向けて活動され成果を上げてこられました。しかしながら、2020年初頭からのコロナの世界的感染拡大とそれによる緊急事態宣言発令により、日本中がそれまでとは全く違う形態での活動を余儀なくされました。大学女性協会もそれに対応して理事会、委員会、支部活動などがこの2年間しばしばオンライン形式や対面・オンラインのハイブリッド形式でおこなわれてきました。さらに、セミナー・シンポジウム、守田科学研究奨励賞贈呈式や、国内奨学生スピーチ会なども同様の形式で開催され、対面のみの開催の時よりも多数の支部会員の方に全国からご参加いただくことができました。とはいえ、コロナの脅威が軽減した5月に岡山で開催された第11回定時会員総会では、対面でのコミュニケーションの素晴らしさと楽しさを参加なさった多数の会員が実感なさったと思います。このような経験をもとに出来上がった「新しい社会」に対応できる大学女性協会とし

て、今年度も活動してまいります。

大学女性協会のホームページのトップページ「大学女性協会とは」には次のように書かれています。

大学女性協会は「女性の高等教育の向上」「男女共同参画社会の推進」「国際協力と世界平和」を目指して1946年に創設されたNGOです。よりよい社会を作るための「啓発・提言」活動と、未来世代を応援するための「奨学・奨励」事業をとおして、国際協力の上に平和な世界を実現する「女性リーダー」を育てようとしています。

「未来世代を応援するための」奨学・奨励事業として、国内奨学金制度は1947年、国際奨学金制度は1989年、守田科学研究奨励賞は1998年にそれぞれ開始され、多数の女性を励ましてきました。大学女性協会の奨学金や賞を獲得したことが履歴書に明記され彼女らのキャリアアップに貢献していることは、私たち会員にとって嬉しいことです。また、近年はこれらの奨学金制度をネット検索で知り、大学女性協会の名前や存在を知った若い女性も多いと思います。私は奨学・奨励事業関連の委員会委員として長年活動してまいりました。奨学金や守田科学研究奨励賞を授与された若い方たち、国際奨学金を得て来日した外国人研究者などにお目にかかるのを楽しみにしてきました。しかし、常に気になっていたのは、そうした若い方たちと大学女性協会とのつながりが、その時かぎりであることが多いことです。大学女性協会として「女性リーダー」の育成にむけて、その方たちを後々まで励ましてゆける仕組みが必要と私は感じています。

現在、大学女性協会では会員の高齢化と会員数の減少への対処が喫緊の課題となっております。今期の理事会はJAUWの伝統を守りつつ、次世代の方たちからも賛同を得られるような新しい時代に対応したJAUWへの進化に向けて、一歩でも半歩でも踏み出しゆこうとしております。さまざまな場面で会員の皆様のご支援、ご協力を仰ぐことと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

### 2022年 JAUW 理事・監事

前列左より：

牧島悠美子総務、市川知恵子副会長、岩村道子会長、中道貞子副会長、嶋田君枝財務

後列右より：〈 〉内は分掌する委員会名

森川淳子監事、山下いづみ支部担当、佐々木澄子監事、鷺崎千春支部担当、松崎和子事業〈収益事業、親睦事業、文化事業〉担当、秋光正子奨学・奨励事業〈国内奨学、社会福祉、科学研究奨励、国際奨学〉担当、岡崎優子CIR・国際ネットワーク〈国際ネットワーク〉担当（国際支援事業〈文化交流〉と併任）、渡部由紀子会計、穂田信子広報事業〈広報、HP運営〉担当



窪田憲子調査・研究事業〈調査・研究〉担当  
（生涯学習事業〈生涯学習〉と併任）



## 実現した対面での岡山総会

前会長 加納孝代

久しぶりに友人に会う時、訪ねてゆく側も、お客を迎える側も共に心躍るものです。もっとも楽しさは同じとはいえず、お客を迎える側の心配りと準備、そして当日のおもてなしのありようは、お客になってゆく側とは比べものになりません。このたびの岡山総会では、岡山支部の皆様が大変お世話になりました。あの総会関連の3日間を思い出すと今も嬉しさに包まれます。木口京子支部長をはじめ実行委員の方々、そして支部の皆様、ほんとうにありがとうございました。

名古屋で予定していた2020年の総会がコロナウイルス感染症流行のために中止になって丸2年、今度こそは対面の総会を、との願いがつついに実現しました。ここで会長任期を終える私にとっても最高の贈り物でした。人と人とは、面と向かって言葉を交わすことによってこそ互いに相手を丸ごと受け入れたいという気持ちになれる…、対面とはなんと良いものだろうと、未だ余韻に浸っております。

## 第11回定時会員総会議事抄録

日 時：2022年5月22日（日）9：30～12：00

場 所：岡山国際交流センター2階 国際会議場

（岡山市北区奉還町2-2-1）

1. 総会成立確認：中山正子総務理事より2022年5月22日午前9時30分現在の出席者85名、議決権行使書提出者247名、出席者合計332名を報告。正会員637名の過半数以上の出席により総会の成立を確認
2. 開会の辞：加納孝代会長より開会の挨拶ののち、逝去会員14名の冥福を祈って黙祷
3. 議長選出：定款に基づき、加納会長が議長となる
4. 書記選出：中山正子理事を選出
5. 議事録署名人選出：城倉純子理事と森川淳子理事を選出
6. 議事

第1号議案 貸借対照表及び正味財産増減計算書の承認に関する件：江原孔江会計理事より議案書に基づき、貸借対照表、正味財産増減計算書、財務諸表に対する注記について説明がなされた。続いて縄田眞紀子監事より業務及び会計監査の報告ののち、議長が同議案の承認を諮り、異議なく承認可決された

第2号議案 理事13名選任。並びに会長候補者選出の件：議案書に基づき森川副会長より提案理由及び役員選考委員会西村寿美子委員長から理事候補者推薦についての説明の後、議長が同議案を議場に諮り、挙手賛成91名、議決権行使書の賛成票247票、計338名の承認を得て選任可決された。尚、被選任者は全員就任を承諾した。定款に基づき、会長候補者として岩村道子理事が承認された

第3号議案 監事2名選任の件：議案書に基づき城倉副会長から提案理由及び役員選考委員会西村委員長より監事候補者推薦の説明の後、議長が同議案を議場に諮り、挙手賛成91名、議決権行使書の賛成票247票、計338名の承認を得て

選任可決された

報告事項：①2021年度事業報告②2021年度公益目的支出計画実施報告③事業計画及び予算書について各担当理事から報告があり、縄田監事から監査報告があった

7. JAUW 公開シンポジウムについて：2022年10月第2週の（土）または（日）。エッサム神田ホールで開催予定。メインテーマ「教育、ジェンダー、共生」を継続

8. 創立80周年記念パトリア募金について

9. 次期総会開催地に関する提案：2022年度新理事会で決定する

10. ウィメンファースト募金について

以上をもって第11回定時会員総会は閉会した。

## 全国総会・第11回定時会員総会開催報告

岡山支部実行委員長 片岡雅子

3年ぶりの対面での全国総会を無事に終えられたこと、皆様安堵されていることと思います。皆様のご協力に心より感謝しています。

コロナ禍で様々な制限の中、安全を第一に、安心して岡山滞在を楽しんでいただけるよう、実行委員一同、試行錯誤しながら準備を進めてきました。本部の方々が力強くリードしてくださったお陰で開催までこぎつけることができました。

岡山支部が担当した1日目の懇親会では、岡山県知事・岡山市長のご臨席が叶い、地元の食材を使った食事を楽しみながら、皆様との貴重な交流の機会となりました。2日目は、岡山出身の歴史学者磯田道史氏の講演が実現し、3日目は、快晴の瀬戸内海を眺め、休館日を貸し切って美術館巡りが実施できました。岡山支部会員の人脈を生かすことができた岡山らしい企画となりました。参加した方々に喜んでいただけたことを大変嬉しく思っています。

バザーも大盛況でした。岡山の準備した帯地をアップサイクルしたバッグ、ネパールとカンボジアの手作り商品はお陰様で完売しました。ご協力ありがとうございました。ネックレスは、カンボジアの障がいのある女性の就労支援になっています。

今回の総会は、実際に会うことの喜び、様々なつながりを実感できる機会だったと感じました。

2023年、どちらかの支部で、再び皆様と元気でお目にかかれることを願っています。



岡山支部実行委員と片岡委員長（前列左から4人目）

## 記念講演「岡山の女性と歴史」

磯田道史氏 ～国際日本文化研究センター教授～

岡山支部 曾田佳代子

岡山出身の歴史学者磯田道史氏は、TV や書籍に頻繁に登場されていますが、岡山でお話なさることは滅多になく、私たち支部会員にとっても得難い機会になりました。小学校時代に祖先の古文書に出会い、書いてある内容を知りたくて図書館に籠りきりで調べたこと、足繁く自転車で片道1時間以上かけて、かつての吉備国の古墳を見に行っていたこと、自宅の庭に縄文式住居を作って遊んでいたこと等、武勇伝は枚挙にいとまがない磯田氏です。岡山を代表する詩人永瀬清子さんに実際に会って、そのたまたまの凄さにただならぬものを直観したという磯田少年の感性に驚くとともに、永瀬さんが「民主主義」「世界平和」の理想を掲げ、立ち上げに尽力した世界連邦都市岡山県協議会事務局で仕事をする中で強く生きていた女性だということ、その本質を若くして見抜いていた磯田氏の慧眼には恐れ入りました。時代は大きく飛び古代へ、様々な統計データから、卑弥呼のご先祖は岡山市北区足守辺りに住んでいたのではないかという話に行きついたときには衝撃が走りました。岡山人として吉備文化の高さは感じていましたが、改めて胸を張るような気持ちになりました。岡山の歴史を糸口に日本の歴史の流れを、磯田氏お得意の根拠に基づいてひも解いていき、江戸時代の都市化率・識字率の高さは世界で一流のものであったこと、更に寺子屋の師匠には女性も多かったことを聞き、世

界の中での当時の日本社会の優位性を感じました。「歴史は単なる記憶の学問ではない。過去から現代に至る流れを読み取ることで未来が見えてくる」を信条に、感染症・自然災害・戦争を歴史の流れで切り取る話題はどれも興味津々で、あっという間の時間でした。磯田氏は「歴史を見極める生きた視点を持っている稀有の歴史学者」と言われていますが、少年時代の夢をそのまま持ち続けて今や歴史学者として第一線で活躍されています。その磯田氏が大学女性協会の立ち位置と、高等教育を受けた会員の責務について触れられ、私たちは改めて理想を掲げてミッションを遂行していかなければと背筋が伸びるような気持ちになりました。

そして磯田氏が監修を務める「岡山城」のリニューアルオープンが今年の秋に迫っています。講演でも触れられた岡山池田藩の歴史上の女性たちがどのような視点で展示されるのか楽しみです。またどうぞ岡山にお越しください。



## 研修旅行「竹久夢二探検隊」

岡山支部 杉村勝子

全国総会が岡山で開かれると決まった頃は、コロナ禍で先が見通せず、エクスカッションは見送ってはとの声が上がっていました。更に、月曜日は文化施設が休館日とあって、実行は難しい状況でしたが、団体でしたらと快諾をいただき、一気に流れが変わります。大正ロマンを代表する「竹久夢二」は、岡山が誇る画家の一人です。たおやかな女性を描く作風は、男女を問わずファンの心を捉え、没後も人気は衰えていません。「竹久夢二を探求しよう!!」とチーム結成も一番早く決定。生誕の地は日本のエーゲ海と言われる牛窓のすぐ近く。では、瀬戸内の多島美を見ていただきましょう、コースは、お食事は、旅のネーミングはと、続々とアイデアが集まります。会を重ね和気あいあいと準備は進みました。現場優先とばかりに、下見ツアーも決行!! 沢山の情報を絞り込み、納得のいくご案内が出来上がりました。心配には及ばず、募集を越える申込みで、チーム一同笑顔が咲きました。

当日の天気を心配するあまり、「晴れ女」対「雨女」の熱戦が始まりましたが、軍配は「晴れ女」に上がりました。展望台からの眺望は少し煙って見えましたが、波も穏やか

に輝き、オリブの果肉入りソフトクリームを美味しく食べる人も。夢二の生家では、復元したアトリエ(少年山荘)の屋根にある幸せを呼ぶハート型の



瓦を見付け、写メに収める人も続出でした。昼食は、岡山の海の幸と山の幸が詰め込まれた「ばら寿司」をいただき、旅の締めとなる「竹久夢二郷土美術館 本館」へ移動。館長代理の解説に、夢二ワールドへ引き込まれ、ファンになった方も多くいらっしゃったのではないのでしょうか。もう一つの旅の醍醐味は、見知らぬ人との出会いと会話です。あちこちで、会話が弾み再会を約束する人達の輪が広がっていきました。今回の旅を一番楽しんだのは、岡山支部の私達です。ご参加の皆様、本当にありがとうございました。

## 会員拡大ワークショップ

支部担当理事 山下いづみ



5月22日総会第2部として、数年ぶりの「会員拡大ワークショップ」開催となりました。オンライン全国支部長会で会員減少の話も出ており、良い機会だったと思います。このワークショップは、2014年にIFUWの事務局の指導のもとで、インド、インドネシア、ネパール、タイ、シンガポール、日本から13名の代表が集まり実施されました。シンガポールのホテルに3日間缶詰にされ、当時の中村久瑠美会長と私、山下いづみ CIR が受けてきました。理事就任1ヶ月余りで参加したワークショップに感銘を受けた私たちは、帰国後すぐに理事会で会員拡大委員会の設置を提案して、当時の縄田副会長が初代委員長となり発足しました。東京で2回、芦屋、仙台、福岡で開催しました。初めの頃は、「ワークショップってカタカナばかりで何をするのかわからない。会員拡大って何するの」と必ずしも前向きに捉えられていなかったと記憶しています。しかし、ワークが始まると、活発な意見が出されて、その後会員増に結びついた支部が出てきました。今回も会員増の一助となりますように。

### ワークショップ当日の記録

#### 1. 組織の強みを考える

まず、「大学女性協会の強みは何か？」について、グループごとに検討した。「各自が強みと思うことを付箋に書き、それを模造紙上に貼り付ける。よく似た意見を集約し、グループ内での意見をまとめた後、各グループから全体に向けて発表する」という形で進められた。多くの意見が出てきたが、紙面の関係でその一部を以下で紹介する。

\*組織の特徴に関するコメント：国際的組織、全国ネットワーク、共通の問題意識、団結力、行政とのつながり、発言力がある、利害関係がない、幅広い経験、多様性など

\*個人の属性に関するコメント：意欲的、ボランティア精神、高い専門性、高齢者も元気、高い文化的教養、リーダーシップ、探究心、協調性など

\*所属することのメリット：友人関係や人脈の広がり、社会貢献、社会的課題の解決、知識が豊富に、楽しいなど

#### 2. 組織の弱みを考える

「強み」に関する活動が終わったところで、今度は「弱み」を考える活動が、強みを考える活動と同様のステップで進められた。

\*組織の特徴に関するコメント：若者に魅力のあるイベントが少ない、若者の問題の理解不足、若者への発信力が弱い、価値観のギャップ、理論先行、ITに弱い、発信力・PR力が弱い、個人のネットワークに依存、組織力が弱い、地域格差、上から目線、保守的、資金力がないなど

\*個人の属性に関するコメント：年齢層が高い、忙しい人が多い、時間が取れない、現役を退いているので実践力が弱い、家族の高齢化など

#### 3. 年代別にアピールするフレーズを検討

山下委員長からは三つ目の課題として「各年代にアピールしたいことを考える」という課題が出され、各グループに一つの年代が割り当てられた。短時間での議論だったが、各グループからは次のようなフレーズ発表があった。

70代以上へ「退職後にも活躍を」、60代へ「社会貢献を始めよう」、50代へ「人生100年時代、アフター60を目指してメール会員になりませんか」、40代へ「母親の活躍する姿を見せよう」「もう一度社会に出たい人を支援」、30代へ「あなたを支えるホットステーション」「悩みを受け入れてアドバイス」、20代へ「オンラインで若者向けに発信」「現役若手研究者同士のネットワークづくり」など

#### 4. 終わりに

今回のワークショップ参加者は約90名と大人数な上に時間が短く、行動計画を話し合うまでには至らなかった。しかし、いずれのグループでも、参加者それぞれが活発に意見を述べ、グループ発表時には特定の人に任せることなく、各人が積極的に発表を担当していたことも印象深い。

山下委員長からは「強みと弱みは表裏の関係にある。大学女性協会はPRが下手という意見も多い。同じような団体があり、外から見ても何をやっている団体なのかが分かりづらい。今日の活動を踏まえ、今後、各支部で話し合ってもらいたい」とコメントがあり、ワークショップは終了した。ワークショップ実施の前と後で、参加者の顔の輝きが違っていったのが印象的であった。

(記録係 理事 中道貞子)



# 第24回大学女性協会 守田科学研究奨励賞贈呈式

科学研究奨励委員会委員長 菅原 洋子

第24回守田科学研究奨励賞の贈呈式が、アルカディア市ヶ谷を会場としてハイブリッド開催された。授賞者は、東京大学大学院農学生命科学研究科助教の井ノ口蘭博士（水圏生命科学分野）と東北大学ニュートリノ科学研究センター助教の渡辺寛子博士（素粒子物理学分野）のお二人である。

井ノ口博士は2006年に東京大学農学部水圏生命科学専修を卒業、2012年に東京大学大学院農学生命科学研究科水圏生物学専攻の博士課程を修了し、博士（農学）を得られた。ハワイ大学ハワイ海洋生物学研究所、東京大学大気海洋研究所等で、日本学術振興会特別研究員として研究を続けた後、2016年に東洋大学生命科学部助教に着任、2021年4月から現職につかれています。受賞研究課題は「魚類の環境適応における塩類細胞の機能形態学的研究」で、魚類がもつ体内の塩濃度を一定に保つ機能について、魚の鰓にある塩類細胞がどのように環境に対応して機能を発現しているかを明らかにした。井ノ口さんは、これらの研究をさらに進めると共に、これを養殖技術に応用する研究も進めておられ、将来を期待できる女性研究者である。

渡辺博士は2007年に東京理科大学理工学部物理学科を卒業、東北大学大学院理学研究科物理学専攻博士前期課程へ進学され、2012年に東北大学大学院理学研究科物理学専攻博士後期課程を修了し、博士（理学）を得られた。同年、東北大学ニュートリノ科学研究センターの助教に着任され、研究を推進しておられる。受賞研究課題は「地球ニュートリノ観測による地球内熱生成量の解明」で、地球内部で放射性物質が崩壊したときに生成するニュートリノ（地球ニュートリノ）の観測に取組み、解析方法、測定技術の開発を含めた研究を展開して成果を挙げ、現在は海洋底ニュートリノ観測プロジェクトを牽引しておられる女性研究者である。

COVID-19感染拡大により、一昨年は第22回守田科学研究奨励賞贈呈式の中止を余儀なくされた。昨年は第23回贈呈式と受賞講演会をオンライン開催し、中止となった第22回の受賞者の方にも受賞講演をお願いした。このような変動的な状況が続いていたが、本年はアルカディア市ヶ谷で、3年ぶりに会長より対面で受賞者に賞状盾の授与が行われ、引き続き受賞講演も含めて、会員に全国からZoomで参加していただいた。岩村道子会長は、挨拶の中で、守田様の遺贈により守田科学研究奨励賞が制定されたいきさつについてお話くださった。受賞記念講演では、受賞者のお二人が専門外の方にもわかりやすい導入を用意され、ご自身の研究成果を紹介された。井ノ口さんはいろいろな生物の体内の塩濃度の紹介から始まり、研究成果の柱となる魚の鰓の塩類細胞にどのような種類があり、これが環境変化にどのような適応を見せるかを電子顕微鏡写真なども交えてわかりやすく紹介された。また、渡辺さんのご講演

を通じ、地球ニュートリノの観測により地球内部での熱生成量を知ることの意義と、現在推進しておられる海洋底ニュートリノ観測プロジェクトへの期待が分野外の我々にもよく理解できるものとなった。受賞講演に対して、会場およびZoom参加者より、近い分野の方からの専門的な質問を含めていろいろな観点からの質問が出された。最後に秋光奨学事業担当理事より閉会にあたり、受賞者のお二人への祝辞とともに、今後の女性研究者の活躍を期待する思いが伝えられた。受賞者のご家族、先生のご参加も得て、会場に16名、Zoomで34名、計50名の方々の御参加のもとに、贈呈式、受賞記念講演会を挙げる事ができた。来年はより多くの方に対面でご参加いただける形での贈呈式と受賞記念講演会を開催できることを願っている。

## 第25回 大学女性協会守田科学研究奨励賞 受賞候補者募集要項

**趣 旨：**本賞は、化学教育者・故守田純子氏から遺贈された資金をもとにして、自然科学を専門とする女性科学者の研究を奨励し、科学の発展に貢献する人材を育成することを目的として、1998年に設けられたものです。

**対 象：**自然科学分野において、優れた研究成果をあげており、科学の発展に貢献することが期待される40歳未満（2023年4月1日現在）の女性科学者を対象とします\*。

\*出産・育児・介護等による休業期間等がある場合はこの期間を年齢から除外します。対象者は根拠を明記してください。

**授賞件数：**年2件以内。賞状および副賞50万円を贈呈します。

**提出書類** 本年度より応募書類はメール添付で提出していただきます。

1. 研究題目とその概要（A4判1頁～1.5頁程度）、今後の展望および抱負（A4判0.5頁程度）（全体でA4判2頁以内）
2. 推薦状（推薦者から直接別メールで送付）
3. 履歴書  
記載項目：氏名（ふりがな）、（英字表記）、国籍、生年月日（年齢）、現住所・電話、所属機関（住所、電話、FAX、e-mail）・職名、（連絡先に○）、専門分野、学歴（高校卒から）、学位、職歴、賞罰
4. 研究業績リスト（主要な論文は○を付記）  
記載項目：原著論文（査読付）、原著論文（査読なし）、総説・その他、著書、受賞歴、学会発表（国際学会、国内学会（招待のみ））、競争的資金
5. 主要な論文5編以内

**【送付先】** morita\_prize@jauw.org

**【件名 (subject)】**「第25回 大学女性協会守田科学研究奨励賞応募書類」

\*推薦状以外：pdf化して1つのフォルダーに収め、zipファイルとする。

フォルダー名：応募者名  
zipファイルの容量が5MB以下：メールに添付で送付、

zipファイルの容量が5MBを超える場合：ファイル便で送付

\*推薦状：推薦者から直接 morita\_prize@jauw.org 宛に送付  
件名 (subject)：「第25回 大学女性協会守田科学研究奨励賞応募（推薦状）」  
ファイル名：被推薦者名

上記の提出方法について、不都合がある方はメールにてお問い合わせください。

**応募締切日：**2022年11月21日（月）（必着）

**選考結果の通知：**2023年3月末

**書類送付先・連絡先：**e-mail：morita\_prize@jauw.org

一般社団法人 大学女性協会

〒160-0017 東京都新宿区左門町11番地6 パトリシア信濃町テラス101

Tel：03-3358-2882 Fax：03-3358-2889

https://www.jauw.org/scholarship-information/moritakagaku/



## 魚類が独自に発達させてきた 浸透圧調節機構を探る

東京大学大学院農学生命科学研究科

助教  
いのくち まゆ  
井ノ口 蘭



魚類が生息する水圏環境は、海洋や河川、湖沼などその塩分濃度は多様である。そのような特殊な環境に生息しているにもかかわらず、現存魚類の大部分を占める真骨魚の体液浸透圧は陸生脊椎動物と同じ生理的範囲（海水の1/4～1/3）に保たれている。陸生脊椎動物は体表からの蒸発や呼吸により常に脱水の危険に晒されてお

り、体液浸透圧を維持するためには水分保持が重要である。一方、魚類は様々な塩分濃度の環境に囲まれており、真骨魚の浸透圧調節機構は淡水と海水では大きく異なることが知られている。真骨魚では、外界環境と接する鰓に存在する塩類細胞がイオン調節の中核を担う。私は塩類細胞について多角的に検証することで、魚類が独自に発達させてきた多様な環境への適応機構の解明を目指してきた。

魚類は淡水または海水にしか適応できない狭塩性魚とその両環境に適応できる広塩性魚に分けられる。広塩性魚の中でもモザンビークティラピアは優れた塩分耐性を持ち、脱イオン水から二倍濃縮海水まで順応可能である。私はこのティラピアを用いて多様な塩分環境下での塩類細胞の機能形態学的な解析を進めてきた。まずイオン輸送体の局在を観察することにより、海水では1種類の塩類細胞がNaClを排出し、淡水では2種類の塩類細胞がNaClを取り込むことを明らかにした。また、走査型電子顕微鏡による観察と元素分析を組み合わせて、塩類細胞におけるイオン輸送体の詳細な局在を検出する手法を開発した。これまでは塩類細胞の機能と形態は別々に検証されてきたが、この方法を用いることにより、これらの関係を直接的に証明することに成功した。次に、ティラピアを淡水から海水に移行した際に、塩類細胞がイオン輸送の方向をどのように取り込みから排出へと切り替えるのかを明らかにするため、鰓の組織培養法を用いた検証を行った。すると、塩類細胞の機能が内分泌系と細胞外浸透圧という両因子に直接的に制御されていることが示された。また、月齢の異なるティラピアの浸透圧調節機能を比較したところ、老齢のティラピアでは環境水の塩分濃度変化に対する塩類細胞の応答性が減り、老化とともに海水適応能が低下することが示唆された。

ここまで示したとおり、私は真骨魚の生存に必須の役割を果たす塩類細胞の機能を解明することで、真骨魚の恒常性維持のしくみを明らかにしてきた。

現在は、これまで得られた生理的な知見を、魚類の健全な育成を実現する養殖技術へと応用する方法を検討し、魚類の浸透圧調節研究の社会への還元を目指している。

## 素粒子ニュートリノによる地球内熱量の解明

東北大学ニュートリノ科学研究センター

助教  
わたなべ ひろこ  
渡辺 寛子



150年以上も前から科学者たちは「太陽や地球を駆動しているものは何か？地球はいつ誕生したのか？エネルギー源は何か？」という根源的な問いに挑んできた。地球内の熱量は大陸移動や地震といった様々な地球活動の源である。しかし、地球内の燃料の残量や寿命はいつ尽きるのかという根本的な問いに対して未だに

解を持たない。地球はハイブリッドカーのように46億年前の地球形成時の熱・重力エネルギーである「原始の熱」と地球内部のウラン・トリウム・カリウムといった放射性物質の崩壊による「放射化熱」という2つの燃料源を持つ。物質の最小単位である素粒子の一種のニュートリノは、電気的に中性で極端に軽い質量であることから何者でもすり抜ける高い透過性を持つ。地球内放射性物質の崩壊時に熱と共に放出される「地球ニュートリノ」の観測は、放射化熱を直接測定する唯一の方法であり、地球の熱バランスに観測ゲージを与える革新的研究である。

私の所属する実験グループは、世界最大の液体シンチレーター検出器（KamLAND, 岐阜県神岡鉱山内）を用いて2005年に地球ニュートリノの世界初観測を成し遂げた。私は、最大の背景事象である原子炉ニュートリノと地球ニュートリノの詳細な統合解析や、日本の原子炉停止期間を利用した検出器の詳細な理解により世界最高精度での観測、2019年にマントル対流方式に示唆を与える結果の発表に貢献した。一方で、観測の問題点の解決を目指した研究を分野横断的に展開している。地球ニュートリノ流量計算モデルの高信頼度化を目指し、物理・地球科学両分野の知見を統合して放射性物質の分布を確率密度関数で扱う新手法を開発した。更に、大陸上では地殻の寄与が70%と大きい為、マントルの情報を得ることは困難であることに着目した。方向有感観測による地殻・マントル成分の分離を目指した新観測法を開発すると共に、地殻が単純で薄い海洋で地球ニュートリノ観測を行うことでマントル起源の放射化熱量測定を目指す海洋底ニュートリノ観測プロジェクト「OBD (Ocean Bottom Detector)」を牽引している。日本の海洋研究の拠点である海洋開発研究機構と共にワーキンググループを構築し技術開発を進めており、2022年に世界初の深海検出器の海底設置実験を計画している。これらの研究は、地球ニュートリノ観測のみならず「地球深部理解」という共通の科学的興味や技術を持つ研究分野間にこれまでに無い連携関係を紡ぎ、新たな研究分野の発展も期待できる。

受賞に際し、実験グループや共同研究者の皆様にも深く感謝致します。ありがとうございます。

## ユースに力づけられた2022年春の JAUW

国際ネットワーク委員長 鈴木千鶴子

近年注目を集める3月8日の国際女性デー（IWD）と、続く国連女性の地位委員会（CSW）。今年はJAUWにとってユースの活躍が光る春となりました。

2月20日（日）、JAUWは「国際女性デーワークショップ～若手女性の国際会議参加経験から私たちのこれからを考える～」のタイトルで、従来の講演からワークショップへ、講師を3名の若手へ、またZoomのブレイクアウトルームを利用したグループディスカッションを導入した企画IWD2022を開催し、27名の参加を得ました。

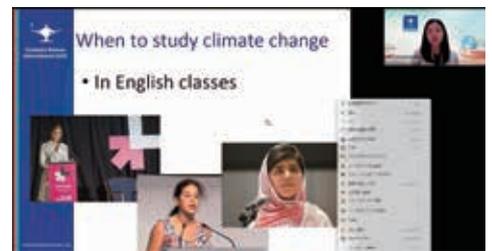
JAUWの国際会議参加支援制度で会議に参加した若手の中から3名がプレゼンターを引き受けてくれました。田中優希さん：現役大学3年生。コロナでオンライン開催となったCSW64（2020）とCSW65への参加を契機に、地元議員の下でのインターンシップや若者会議、児童養護施設の仕事を通し地道な活動を継続中。櫻井彩乃さん：CSW60とCSW62に参加。高校時代よりジェンダー平等を目指した活動を始め「#男女共同参画って何ですか」代表として、2020年の第5次男女共同参画基本計画に30才未満の意見を踏まえた提言を政府に提出。若者の声を政策に反映する活動を展開中。向山順子さん：2016年度安井医学奨学生。コロンビア大学博士研究員としての勤務や、GWI100周年記念大会（於ジュネーヴ）の他、医学系の国際学会への参加など多彩な経験を持つ30代半ばの外



科医。二人の幼いお子さんの育児と診療と世界レベルの研究の両立に奮闘中。

アンケートで回答者の76.9%が「大変良かった」、23.1%が「良かった」と高評価でした。自由記述では「三人三様の発表に意識の高さが・・・」「若い方のプレゼンを楽しみにしていた。期待を裏切らない三人の発表でした。こうした若い方との交流を今後も続け、JAUWの活性化につながると期待している」や「JAUWの企画として、グループディスカッションを取り入れたイベントに参加は初めて。グループディスカッションもその後の報告もよかった。とても充実した会でした」などと、好評ぶりがうかがえました。

このIWD2022にも参加した長谷川舞さんは、CSW63に大学3年時に参加、卒業後神奈川の県立高等学校に英語教員として勤務して2年。今年のCSW66



でGWIのユース主催の平行イベント「若手女性が気候変動に対してできること～気候変動に意識の高い世代の育成～」(3月24日)に、米国・トルコ・ロシア・パラグアイのユースと並びパネリストとして登壇。高校生の気候変動問題への対応力育成についてアクティブラーニングの手法を取り入れた実践例を発表。ユースをはじめ参加者から印象と記憶に残ったと大きな拍手が送られました。今後の日本の意識高揚と行動の活発化へレバレッジの役割を果たしたと確信します。

### Jカフェ第12回報告

## 人生100年時代の今、私たちはどう生きる？—ハワイのワヒネから学んだ生き方—

講師 茨城支部副支部長 中島美那子

講師は人生100年時代の生き方を研究中の茨城キリスト教大学教授。お話はまず、「9回裏までの人生」（藁谷浩介）、『ライフシフト』（リンダ・グラットン、アンドリュー・スコット）、『孤独からはじめよう』（中野善壽）、「ヨタへ口期をどう生き抜くか」（樋口恵子）、『精神科医が見つけた3つの幸福』（樺沢紫苑）の5つの文献から導き出した①人生100年時代にいる私たちが押さえておきたいこと②人生の9回裏あるいは延長戦あるいは35年と、とてつもなく長い老後をどう生き抜くか③他者とのつながり④グリーンケアの大切さ⑤より柔軟な思考、学び直しとスキルの再習得について、から始まり、次に、講師がちょうどハワイで進めていた日系女性へのインタビュー「ハワイのワヒネ、ケーススタディ」から、日系2世で今もiPhone、Applewatch、Macを使いこなすホストマザーで90歳Aさん、日系3世で「speak up」（黙っていないできちんと発言する）77歳のBさん、移住して70年、元気体操でテレビ番組を持っている85歳のCさん、移住して50年、意思表示をすることに躊躇しない85歳のDさんの生き方が紹介された。

「人生100年時代のキーワード」は、「つながり」がてっぺんにあって、下を支えているのは「多様性に富むネットワーク」「他者受容」「個で立つ」「恩送り」「マルチステージ」「柔軟な思考」など12のキーワード。「多様性に富んだ新しい人的ネットワークを広げる」については、私自身が昨年、まさにそのために入会した新たな「国際的団体への加入」が、残された自身の人生にどれだけ精神的な豊かさをもたらしてくれるか否かが問われているようで、より興味と関心をもってお話を伺った。

最後に、日本女性は社会で成功する要素を大いに持っているとしながらも、ハワイの女性にあって日本の女性に足りないのは「その試みや挑戦を歓迎し応援する社会、パートナーの存在」ではないだろうか！と締めくくられた。

（松本由美子 記）



Jカフェ オンラインで発表する中島美那子氏

## 国際奨学生からのメッセージ

コロナ禍の影響で国際奨学生の募集が中止されています。会報273号で過去の奨学生の帰国後の活躍を紹介しましたが、今回は日本で研究を継続して本年4月より京都大学に就職された留学生の Surabhi Rathore さんと受入研究者の水藤寛教授からメッセージを頂きました。

## 充実した日本での研究活動

京都大学特定研究員 Surabhi Rathore



大学女性協会2018年度国際奨学生の Surabhi Rathore です。協会の財政的支援で来日し、東北大学の水藤寛先生のもとで研究できたことに感謝いたします。博士学位をめざす研究を始めた頃、数学的スキルを特に医学の分野で応用する研究課題について調べていた時に大学女性協会の奨学金制度を知り、水藤先生に受入れをお願いして快諾頂きました。国際奨学金が私の研究者としてのキャリアの転換をもたらしたのです。

東北大学では一生懸命勉強し多くのスキルを学びました。2019年10月から2022年3月まで、水藤先生が研究代表者を務めていた JST-CREST によって研究を継続しました。私は助手となって、外科医師の方々と共同研究から医学的視点を学びました。研究環境はとても協力的友好的で、たくさんのミーティングはアイデアを交換し共有する機会となり、毎週水曜日の「コーヒータイトム」では研究以外の経験も話しあいました。仙台での私の毎日を何かにつけてサポートして下さった金子さん、鈴木さんには心から感謝しています。水藤研究室のすべてのメンバーが私の研究スキルの向上を助けてくださいました。コロナ禍の間も全員で努力して平穏さを保ち、研究の環境を維持することができました。私は対面やオンライン上での様々なリサーチ・プラットフォームで発表しました。

2022年4月から、京都大学ヒト生物学高等研究拠点 (ASHBi) で数理生命医学グループ研究者として仕事をしています。この研究グループは、細胞挙動やパターンなど、数学とヒト生物学との密接な関係に焦点をあてています。優れた研究環境のもと、生物学者と共同研究をする多くの機会があります。実生活の問題解決にとって価値の高い研究成果を創出するよう、一流の大学や諸機関との研究を継続することを約束します。大学女性協会のご厚意とご支援に重ねて感謝いたします。私も他の人々の力となって社会に還元し、研究者たちの目標達成を支援したいと思います。

## Surabhi さんの研究について

東北大学教授 水藤 寛

Surabhi さんは、2018年に貴協会から国際奨学金の助成をいただいて来日し、東北大学の私の研究室で研究に励んできました。その後、研究補助者から助手となり、この4月から京都大学に職を得て移りました。その間、本国での学位取得プロセス、新型コロナウイルス感染症の流行など多くの困難がありました。持ち前の根気良さで明るさで頑張り抜きました。人工透析が必要となる前腕部のシャント付近の血液の複雑な流れを数学とコンピュータを使って調べる研究に取り組みました。彼女が無事博士の学位を取得できたこと、大変うれしく思っています。彼女が日本に来て異なる文化の中でも経験を積み、研究者の道を歩み始めることができたのは貴協会の助成の賜物と、感謝しております。



水藤研究室の仲間たちと (中央が Surabhi さん、その左が水藤教授)

## 国連第3委員会本会議をオンライン視聴して

GWI プロジェクト開発委員・愛知支部 Irene Gashu (賀集イレーネ)

第76回国連総会議長は Abdulla Shahid モルディブ大使。第3委員会議長は Mohamed Siad Doualeh ジブチ大使。残念ながら、二人とも男性でした。しかし、6つある委員会の内、3つの議長は女性でした。

発表は3分以内。3分を超えるとマイクの赤いランプが点滅し、4分経つと自動的にマイクが使えなくなります。

私は第3委員会の本会議全16回をインターネットで視聴しました。印象的だったのはシリア代表(写真上)のお話でした。「私の妹は昨日出産し、今は家にいますが、電気がありません。一方的強制措置のせいで、発電できないのです」。

世界の飢餓人口の70%は女性が占めています。「食料への権利」に関する決議案に180ヵ国が賛成、棄権0というなか、米国とイスラエルは反対しました。各国の投票が電子ボードに表示されるのを興味深く見ました(写真下)。

最後にイギリスとエジプトの代表が詩を朗読し、会議は和やかな雰囲気で行われました。



## コロナ禍での委員会活動報告

思いのほか長引くコロナ禍では、各委員会は活動の範囲が狭められました。そのような中でも、各委員会はオンライン会議をし、また、十分コロナ対策を取って対面会議をしたりと、創意工夫をして、活動を続けてまいりました。委員会の活動の一端を纏めて報告いたします。

### 調査・研究委員会

勝又幸子

調査・研究委員会は、2018年度より旧教育委員会・旧女性エンパワーメント委員会を統合し、社会福祉委員会の調査機能を継承する新委員会として発足しました。委員会は2年間で活動をしますが、4年間共通していたのは、大学女性協会が掲げてきた「教育・ジェンダー・共生」を大きなテーマとしたということです。この委員会は公益目的事業のひとつとして「啓発・提言活動」をする役割を担ってきました。参加した個人々の経験はあるものの、団体として実践に基づく活動実績がなかったため、委員会の活動は全国の支部の協力で調査を行うことから始めました。外国にルーツのある住民と多文化共生に取り組み、その中で、公立中学校における高校進学指導の実態を調べました。2021年報告書をまとめ、提言として4つの指摘をしました。コロナ禍で集まることができなかった後半の2年は、オンラインで日本語教育をめぐる実態と課題について学びました。

2019年日本語教育推進法が成立して教育現場の日本語教育環境の充実が望まれる時期でしたが、コロナ禍で海外との人の往来が難しくなり大きな進展がなかった時期でした。4年間の委員会活動をしめくくるにあたり、誰ひとりとのこさない日本社会をめざして、というサブタイトルで提言を出しました。日本語教育が日本社会への同化の道具であってはならない、外国にルーツのあるこどもたちにとって母語教育が重要でそれを日本で受けられるようにすべきだということ。そしてなにより人権の尊重を基盤とした政策をすすめ、その担い手の養成に力をそそぐべきだという内容です。報告書と提言、2021年度の勉強会の様子は全てホームページでご覧いただけます。全国どこからでも参加できるようにオンラインで活動していきます。全国から新たに多くの人々の参加を期待します。

### 広報委員会

端本和子

2020年4月7日からのコロナ禍による緊急事態宣言により、JAUWは2020年度と2021年度の総会を書面評決で行いました。それに伴って、各委員会活動も例年通りの対面での委員会を開催できず、オンライン会議で委員会を開催してきました。また、支部もコロナ禍の余波を受け、それぞれの支部が工夫を凝らし、支部総会や活動を行ってきました。そのような中で会報は皆様の活動をどうお伝えできる

かをオンライン会議で何度も話し合い、会報を例年通り年3回発行することができました。

支部に関しては2021年度全国総会での支部長オンライン会議、2020年度は「その時支部は」とアンケートで各支部の総会報告を掲載いたしました。2020年度の記事では各支部の創意工夫がそれぞれに発揮され、読み応えのある特集になりました。校正の段階で各支部長から、ほかの支部の記事を見て原稿の修正がたくさん行われました。そのような、各支部の熱意に感動いたしました。

委員会活動もオンライン会議を駆使し、活動を続けてこられ、会報に掲載するにあたって、頭が下がりました。会報もほとんどの委員会報告を掲載することができ、改めて、JAUWの情熱を知ることは本当に驚きでした。例えば、生涯学習委員会ではオンラインでJカフェを行った結果、各支部からの参加者が増え、本部・支部の垣根を取ってJAUWが一体となって活動できるようになりました。オンラインで支部がつながり、活動が全国規模になるさまを記録できたことは喜びでした。皆様、ご協力ありがとうございました。

JAUW会報1号（1949年6月18日発行）に「お願い」として、このJAUW会報をもって、機会あるごとに会報を配り、会員の拡大をと書かれています。

どうぞ、会員の皆様、これからも会報を手に携えて、会員の拡大をお願いいたします。

### 会員委員会

市川知恵子

会員委員会は当協会の会員の名簿の管理を行っています。いつも支部長の皆さまからの迅速な会員異動等の報告をいただきご協力に感謝申し上げます。社団法人の要は社員、即ち会員です。定款等のルールに基づき正しく行われている会員の入会・退会について会員委員会は定期的に会員名簿を更新しています。1997年よりパソコンを導入しましたが個人情報保護のためネット接続を禁止しています。会員委員会の主な作業は事務所で行うため、事務所近郊の東京支部・神奈川支部会員が会員委員会を担っています。

入会・退会、支部移動・住所変更等のほとんどのお知らせは本部事務所のパソコンへ連絡が来ます。事務職員坂本さんの協力があり会員名簿の整理ができています。本部からの会報、重要書類の発送にはこの名簿から宛名が作成されます。

ご長寿のお祝いの葉書を担当委員から差し上げ大変喜ばれています。2022年度は米寿及び92歳以上の会員へ誕生

カードをお贈りいたします。

このコロナ禍で事務所での作業は会員それぞれの体調に合わせて限られた時間となっていました。毎月一回の定例会と作業日があります。名簿管理はミスの許されない緊張する仕事ですが、コロナ以前は昼食時などに和気藹々と懇談する時間がありました。会員委員会のボランティア作業を通して人と繋がりそして社会と繋がり元気をもらいます。6月から縄田眞紀子会員委員会委員長を中心に皆さまへの会員サービス満足度の向上を目指して委員一同努めてまいります。今後ともご理解ご支援のほどよろしく願いいたします。

## 収益事業委員会

中山正子

収益事業委員会もコロナの影響を受けて活動が制限されていましたが、昨年度は全国セミナー、新春のつどいで久々にバザーを開くことが出来ました。歌舞伎、文楽、能・狂言、雅楽などの鑑賞会も、蔓延防止等重点措置の合間を縫うように行いました。秋には趣向を変えて、「蜷川幸雄七回忌追悼公演『ムサシ』」とミュージカル『Oliver!』を企画しました。私たちの焦らず地道な活動に皆さまのご協力を得て、コロナ禍にもかかわらず、421,600円の純益をあげることが出来ました。心から感謝申し上げます。

ようやく平常の生活に戻りつつある今年度は、以前のように活発な収益事業ができるように願っています。5月に岡山で開催された全国総会でのバザーでは、支部の皆さまがお持ちくださった寄贈品が山のように積まれて、瞬く間に完売、その売り上げは96,800円にもなりました。東京から持参した品物も総会終了時にはほとんどなくなりました。7月には初の試みとして、国立演芸館で落語寄席、春風亭昇也さんの「真打昇進披露興行」を鑑賞します。秋からは日本の伝統芸能である歌舞伎、文楽など、出し物を厳選して皆様にご案内いたします。全国公開シンポジウム、新春の集いではバザーを予定しています。事務所でも委員会推奨の品々やJAUWのロゴマーク入りポロシャツ、Tシャツを販売していますのでどうぞご利用ください。状況を見ながら見学会や街歩きにもお誘いできればと思っています。今後とも皆さまのご協力をどうぞよろしくお願いいたします。なお、収益事業委員会では一緒に活動して下さる新委員を募集中です。毎月第1水曜日に定例委員会を開催しています。新企画やバザーの仕入れ品などの相談、楽しい情報交換の場にもなっています。遠くの支部からはZoomでもご参加いただけます。バザーの売り子さんのお手伝いも大歓迎です。委員長までご連絡をお待ちしています。

## 文化事業委員会 ―祈りをこめて希望をつなぐ― 鷺見八重子

当委員会は、収益事業を行う委員会の一つで純益50万円を目標に年2回のコンサートを企画・実施してきました。一流のアーティストを迎えて様々なジャンルの音楽を楽しみながら JAUW が誇る大切な事業の資金づくりに貢献できるのは委員たちにとって大変嬉しいことです。

2020年、COVID-19の緊急事態により通常の集客事業がまったく出来なくなったとき、何とか活路を拓こうと藤谷担当理事と私は真っ先に六本木の高層マンションに天満敦子さんを訪れました。案にたがわず天満さんは「うれしい〜!」と、われらの願いにもろ手を挙げて意気投合、いつでもどこでも OK とお任せいただきました。無伴奏なら伴奏者との濃厚接触の心配がない、リハーサルは15分あれば大丈夫、すべて単純明快でした。

さいわい首尾よくとれたハクジュホールは医療研究所ビルの8階で見ると清涼感があり、ホール担当者の対応には安心感がありました。席は300席の半分のみ使用、純益は半減でしたが、かえってゆったりと演奏をお愉しみいただけたと思います。

天満さんの3・11以来のテーマである「祈り」をこめて選ばれた古今東西の名曲の数々が今でも胸によみがえります。そして祈りは、ひとの思いを超えて不思議な力を発揮します。2021年秋、ふたたび私たちは天満さんの素晴らしい音色につつまれ、先が見えない困難な時にも「希望」をもって諦めない世界中の人々の勇気に思いを馳せました。

こうして辛くもつないだコンサート事業は、2022年6月14日、お馴染みのけやきホールにオペラやテレビに大人気の加来 徹さんを迎え、「バリトンリサイタル〜歌で世界を駆ける」へとつながりました。200席ほほ満席の大盛況でした。11月26日（土）には、内村鑑三ゆかりの新今井館講堂にてチェンバロとチェロの演奏会を予定しています。遠くにあつて文化事業の成功を祈り、また何を置いてもご来場くださる皆さま、今後ともご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



バリトン 加来 徹 (右)、ピアノ 松岡あさひ (左)

2022年度公開シンポジウムのご案内

テーマ 「教育・ジェンダー・共生」  
 ユースの視点から見直そう これからの日本—

日時: 2022年10月22日(土) 10:30~16:00  
 会場: エッサム神田ホール2号館(神田駅至近)  
 開催方法: 対面とZoomによるハイブリッド形式  
 内容: 基調講演者は、若者の就労支援や学習支援に取り組んでおられる静岡県立大学 津富宏教授。パネリストは、若手会員の一原雅子さん、宮下摩維子さんと、静岡県立大学学生の佐藤美帆さん、松浦旦周さん。ユースの声を聴き、課題を明確にして課題解決の方策を議論し、行動のきっかけを見つけましょう。

\*詳細は、同封のチラシをご参照ください。  
 企画委員長 中道貞子

(一社)大学女性協会80周年記念募金パトリア寄付者ご芳名

2022年2月1日~2022年6月30日  
 寄付者人数: 62名、寄付金額: 698,500円  
 上記期間中の寄付者ご芳名(敬称略・支部別 五十音順)  
 (札幌) 堀内満智子 (仙台) 相澤富美江 (新潟) 長谷川道子  
 (茨城) 安藤隆子、城倉純子 (長野) 徳田節子 (東京) 阿部幸子、  
 安東桂子、伊能美智子、江原孔江、大島杏子、加藤聖子、  
 加納孝代、桑折美子、佐々木澄子、嶋田君枝、嶋田美恵子、  
 庄司ヨシ、鈴木佳子、田中紀子、縄田真紀子、端本和子、  
 長谷川瑞穂、村木晴子、望月浪江、森川淳子、鷲崎千春  
 (神奈川) 鷺見八重子、中村礼子、房野 桂 (愛知) 林 恭子  
 (福井) 東野香里、山田由美 (京都) 久保宜子、松田栄子  
 (奈良) 久留島涼子、津田直子、中道貞子、正田洋子  
 (大阪) 小阪田泰子、北村美佐子 (神戸) 三木谷節子  
 (岡山) 青木多寿子、岡崎優子、木口京子、近藤みち子、  
 角田みどり、竹宮ゆき子 (広島) 山手万知子  
 (大分) 原尻みどり (熊本) 岡本美和 (福岡) 萩尾憲子、  
 和栗方子 (長崎) 梅田和子、鈴木千鶴子 (匿名希望) 1名  
 (賛助会員) 磯辺正昭、小笠原今子、高橋政春、武田裕子、  
 西村攝子  
 全体期間: 2021年4月30日~2022年6月30日  
 寄付者延人数: 207名、寄付総額: 2,130,500円

寄付金の振込先口座  
 銀行: ゆうちょ銀行  
 名義: 一般社団法人 大学女性協会  
 ① 払込取扱票(郵便振替)で行う場合  
 口座記号及び口座番号: 00130-0-587701  
 ※パトリア募金専用の払込取扱票をお持ちの場合は、  
 そのまま使用可能です。  
 ② 他行から振込の場合  
 支店名: ○一九店 口座種類及び口座番号: 当座 587701  
 ※ゆうちょ銀行口座から振り込まれる場合も同じです。

理事会から

- ▶ 岡山での全国総会を始めとして、委員会、支部の対面での活動が徐々に再開されてきました
- ▶ 9月22日をメ切としCSW 若手参加支援希望者を募集中。要項はHPにあります
- ▶ 事務所の夏季休業期間 8月10日(水)~8月21日(日)

一般社団法人 大学女性協会 2022年度国内奨学生募集要項

- I 応募資格
- 一般奨学生 文部科学省の認可する大学の大学院に在籍1年以上の女子学生で、学業人物ともに優れた者。
  - 社会福祉奨学生 文部科学省の認可する大学の学部・大学院に在籍1年以上の女子学生で、身体に障害があり、かつ学業人物ともに優れた者。
  - 安井医学奨学生 文部科学省の認可する大学の大学院に在籍1年以上の女子学生で、医学・歯学・薬学を専攻し、かつ学業人物ともに優れた者。
- \*備考
- ・1大学から各部門1名ずつ3名まで、1名は1部門に限り応募することができる。
  - ・過去に当協会の奨学金を授与された者は、再応募することはできない。
  - ・在籍年数に休学期間は含まず、2023年2月末日に、在籍であること。
  - ・秋入学の場合は2022年10月末日時点で在籍1年以上であること。
  - ・博士課程後期1年、6年制博士課程1年在籍者は博士課程前期(修士)修了と同じ扱いとし、資格要件を満たすものとする。
  - ・社会福祉奨学生は、身体障害者手帳の交付を受けていること。
  - ・経済的理由は、一切問わない。
- II 支給額および募集人数
- 一般奨学生 大学院生20万円 6名
  - 社会福祉奨学生 学部生10万円 大学院生20万円 学部生、大学院生合わせて3名以内
  - 安井医学奨学生 大学院生30万円 1名
- \*備考
- ・応募状況により奨学生人数を変更することがある。
  - ・奨学金は1回限りである。
- III 提出書類(下記(1),(2),(3),(4),(6)はホームページからダウンロードして使用のこと。6月中旬掲載)
- 連絡用応募者情報  
 応募者全員は「連絡用応募者情報」に記載のURL/QRコードにアクセスし、枠内に必要な情報を記入し、「送信」ボタンで送信すること(印刷して提出は不要)。
  - (1) 履歴書・自己紹介書(写真貼付)
  - (2) 一般社団法人大学女性協会国内奨学生推薦書  
 ・記入者は在籍する大学の学長・学部長・学科長・指導教員のいずれかであること。  
 ・学長氏名・印又は奨学金担当者職名・氏名・印が必要。
  - (3) 研究・勉学の内容について  
 ・大学院生は様式A  
 ・学部生は様式B
  - (4) 研究業績リストおよび社会的活動  
 ・大学院生のみ
  - (5) 学業成績証明書  
 ・在籍する(直近に在籍した)大学院(学部生は大学)のもの。
  - (6) 身体障害状況報告書と身体障害者手帳の写し  
 ・社会福祉奨学生のみ
- IV 応募方法および締切り
- 応募者は、応募書類を在籍大学へ提出する。  
 大学は一括して2022年8月31日(水)(必着)までに、当協会支部が設置されている都道府県の大学は当該支部に、支部が設置されていない県の大学は本協会本部に、応募書類を提出すること。
- V 結果通知
- 選考結果は、本人・大学学長・推薦支部長に2022年11月末日までに電子メールで通知する。
- VI その他の留意事項
- (1) 一般奨学金、社会福祉奨学金、安井医学奨学金を授与された者は2024年3月31日までに本協会会長宛に「研究成果報告書」を提出すること。提出のない場合は奨学金の返還を求められることがある。
  - (2) 国内奨学金贈呈式は2023年1月に東京において開催の予定。(詳細は後日通知する)
  - (3) 不明の点は当協会又は当該支部に照会のこと。

新入会員 理事会承認 2022年2月~6月

仙台支部 渡辺 寛子 東京支部 青木麻里子 東京支部 井ノ口 蘭  
 東京支部 大井 恭子 東京支部 鈴木 公江  
 静岡支部 ヴァレリー・ウィルキンソン 大阪支部 遠藤 芳江

一般社団法人 大学女性協会

〒160-0017 東京都新宿区左門町11番地6 パトリア信濃町テラス101  
 電話 03-3358-2882 F A X 03-3358-2889  
 https://www.jauw.org E-mail:jauw@jauw.org  
 発行人 岩村 道子 編集責任者 端本 和子  
 発行日 2022年7月25日